

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム山門		
所在地	宇部市山門4丁目6-4		
電話番号	0836-37-6151	事業所番号	3570200638
法人名	社会福祉法人 むべの里		

訪問調査日	平成 20 年 12 月 8 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 3 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人 非常勤 4 人 (常勤換算 7.7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 27,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	1ヶ月1,000 円
その他の費用	月額	11,000 円		
	内訳	光熱水費 11,000円	通信費	2,000円

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
	要介護 1	3	要介護 4	3	
	要介護 2	3	要介護 5	0	
	要介護 3	0	要支援 2	0	
年齢	平均 83 歳	最低	78 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 むべの里診療所 にしむら内科クリニック 歯科
-------------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	ホームは落ち着いた雰囲気では利用者も明るく、職員間のコミュニケーションがよく取れておりケアに対する熱意が伺えます。日々のスケジュールはありますが、個々の思いや希望を優先し、それぞれのペースでゆったりと過ごされています。
(特徴的な取組等)	福祉相談員の訪問が月2回あり、利用者と一緒に話したり、サービスに対する気づきや助言をもらっています。月1回宇部西高校園芸部の生徒との交流があり、文化祭に参加したり、花や野菜と一緒に植えて、利用者の楽しみの一つになっています。近くのコンビニエンスストアとも緊急時の応援を取り付け、地域の中に溶け込んでいる様子が伺えます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	職員全員で話し合い、できることから改善に取り組んでいます。地域密着型サービスとしての理念はホーム独自のものを作成し、ヒヤリはっとの記録も整備されています。夜間想定訓練は12月に予定され、職員の研修は全員が受けられるよう検討中です。
(今回の自己評価の取組状況)	管理者が記入し、期待したい項目のみ職員と話し合っています。
(運営推進会議の取組状況)	定期的開催し、メンバーは連合自治会長、市高齢福祉課職員、家族、利用者でホームでの生活ぶりや行事報告、評価結果などを報告し、意見交換や要望等ホームの運営に活かされています。
(家族との連携状況)	毎月のホーム便りに金銭明細書、担当職員の手紙を添えて送付しています。面会時に声かけや生活ぶりの報告、また電話連絡もしており、イベントの写真は年1~2回まとめて送っておられます。
(地域との連携状況)	自治会に加入しており、広報誌でイベントの把握をして参加したり、散歩時に花や野菜をもらうなど、近所との交流があります。コンビニやスーパーの協力や住民のボランティアもあり、高校の園芸部と月1回の野菜や花作りの交流をされています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	職員と話し合っ「家庭的な雰囲気の中で地域の人々と触れ合いながら、共に支え支えられる生活」をホーム独自の理念としている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	掲示した理念に目を通すことと、会議で確認しながら実践に取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、広報誌でイベントの把握をして参加したり、散歩時に花や野菜をもらったりしている。また、地域のボランティアに習字や絵手紙を習ったり、高校の園芸部の生徒との交流もある。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者は評価の意義を理解し、自己評価表を記入しているが、職員全員の理解と検討がされているとはいえない。改善については全員で取り組んでいる。	○ ・全職員による評価の意義の理解と検討
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	定期的開催し、メンバーは連自治会長、市高齢福祉課職員、利用者、家族で、ケアの取り組み状況、行事報告、外部評価の報告をし、意見交換を行いサービスに活かしている。地域のメンバーは少ない。	○ ・メンバーの拡大
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	行政手続きで関係課との行き来をし、相談をしている。また、月2回の介護相談員の来訪で、サービスに対する気づきや助言をもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月1回のホーム便りに、金銭利用明細や担当者の手紙を添えて送付している。面会時や電話などで暮らしぶりを伝えたり、意見や要望も聞き、家族との絆を大切にしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情や相談はできるだけ話しやすいように、面会時には問いかけをしており、窓口や外部機関、第三者委員は明示している。苦情処理の手続きが定められていない。	○ ・苦情処理手続きの明確化
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤5名、非常勤4名の職員体制で、行事のある時は増員し、緊急時には管理者や近くの職員が対応している。職員の代替として休暇の職員に依頼する仕組みを作り、勤務の調整をしている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の離職を最小限に留めるため、悩みの相談や職員間のコミュニケーションの向上に努め、異動があった場合はスムーズな移行に心がけてダメージを防ぐ努力をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	介護福祉士や介護支援専門員の受験のための勉強会を月2回程度実施し、現在2名が受講している。管理者は内外の研修に参加し、職員に伝達研修をしているが、職員の研修参加の機会は少ない。	○ ・全職員の研修への参加の検討
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会の勉強会(年4回で1~3人)や交流会に参加して、ホームの質の向上に役立っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用前に本人や家族に2～3回来てもらい、一緒にお茶を飲んだりゲームをするなど、徐々に馴染めるよう配慮している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>利用者から調理や盛り付け、洗濯物のたたみ方などを学んだり、昔話を聞くことも多い。また、生活歴から元教師の利用者に漢字を尋ねたり、人生の先輩として尊敬の念を示すよう配慮して、支え合う関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の生活の会話や行動から、本人の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で本人本位に話し合っている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は、本人や家族の希望を聞き、職員間で検討し共有して、それぞれの意見やアイデアを反映した計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>見直しは3ヶ月ごとに実施し、変化があればその都度家族と話し合い、現状に即した計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の付き添いや移送サービス、週1回の看護師の訪問、入院中の洗濯の支援、葬儀などの特別な外出を柔軟に支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族と話し合い希望に沿った医療機関を決め、かかりつけ医の場合は家族の協力を頼み、情報は家族や主治医から得ている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	法人の看取りを行なう方針によりマニュアルを作成している。重度化した場合は、職員、家族、主治医、訪問看護師と話し合い支援することとしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシー保護については勉強会があり、特に言葉かけは職員間で確認している。個人情報の取り扱いに注意すると共に、記録物は専用の棚に保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ホームとしてのスケジュールはあるが、一人ひとりのその日のしたいことを把握し、希望にそって支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食はホームで調理し、昼食、夕食は配食としているが、盛り付けや後片付けは利用者と共に、語りのある楽しい食事風景であった。おやつについては好みを聞いて対応している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ホームで日中実施している認知症デイサービスの入浴が午前中になり、利用者の入浴は午後3:30～5:30までとなっている。希望にそって入浴しているがデイサービスの送迎のためゆっくりとできないこともある。入浴を拒む場合は清拭や部分浴も行なっている。	○ ・事業所の都合で入浴時間が決められていないかの見直し

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴を把握し、掃除や食事の配膳、後片付け、水やり、新聞取りなどの活躍できる場面づくり、読書や散歩、買い物、テレビ、絵手紙などの楽しみごとなど、張り合いのある生活ができるよう支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や散歩、ドライブは個別に対応し、月3回の夕食、日帰り旅行など希望にそって外出できるよう支援している。しかし、散歩などの回数が少ないようである。	○ ・利用者の希望にそった外出の支援
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人内の研修に参加し、全体会議や山門会議で伝達して、特に言葉づかいには職員間で共通認識を図り、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵をかけることの閉塞性を理解しており、日中は施錠せず、利用者の動きを見守り外出を察知し、一緒に出かけるよう支援している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりのリスクを把握し、会議の後に勉強会を行い事故防止に取り組んでいる。ヒヤリはっとや事故報告書を整備し、職員間で検討し改善策を講じている。マニュアルはまだ作成されていない。	○ ・マニュアルの作成
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルがあり、市の保健師による事故防止と手当てに関する研修を受けているが、定期的な訓練ではない。	○ ・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を実施し、避難場所の確認や消火器の使用訓練も行っている。地域の協力や夜間想定訓練は検討中である。	○ ・地域の協力体制づくり

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬は手渡しして確認しており、状況を主治医や看護師にフィードバックしている。薬の目的や副作用についての理解が充分とはいえない。	○	薬の情報を全職員が把握する工夫
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後力量に応じた口腔ケアを実施し、夕食後歯ブラシの消毒や義歯の洗浄を行っている。		
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	昼食、夕食については、栄養士による献立でバランスやカロリーを把握している。食事摂取量や水分摂取量は記録され、一人ひとりの状況に応じ刻みやお粥にしている。		
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、手洗いやうがいを励行している。流行の情報は市や法人本部から入手し、看護師の指導を受けて感染予防に努めている。全員がインフルエンザの予防接種を済ませている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間はソファや椅子、テレビが置かれ、壁には季節の飾り物(クリスマスツリー)やお花、作品(習字)、行事の写真が飾られている。明るく不快な音もなく、キッチンの匂いや包丁の軽やかな音が五感を刺激しており、心地よい雰囲気が出ている。		
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具や写真、絵手紙の作品が置かれ、その人らしく落ち着いた居室である。季節ごとに衣服を入れ替える家族もあり、一緒に部屋づくりがされている。		

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム山門
所在地	〒755-0077 宇部市山門四丁目6番24号
電話番号	0836(37)6151
開設年月日	平成12年9月1日

【サービスの特徴】

目的 地域に開かれた老人福祉を実施すること目的としています。
 運営方針 思いやりと優しさを持って、お年よりの「自立と尊厳」を大切に致します。

【実施ユニットの概要】 (11月15日現在)

ユニットの名称	グループホーム山門			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 0名	女性 9名	
	要介護1 3	要介護4 3		
	要介護2 3	要介護5 0		
	要介護3 0	要支援2 0		
年齢構成	平均 83歳	最低 78歳	最高 90歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者のみで記入しました。
評価確定日	平成20年12月8日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	家庭的な雰囲気の中で地域の人々とふれあいながら、共に支え、支えられながら今までくらししてきた生活感を大切にしよう心掛けている。	
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念はホーム内に掲示し、職員は各自で目を通してもらっている。また、会議等でお互い確認しながら話し合いをしている。	
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	運営方法を掲示し、目を通してもらっている。	
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	サービスの質の向上に向け、お互いに話し合いながら理念に向って意思統一がはかれるよう熱意を持って取り組んでいる。	
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	お祭に参加したり、ホームページや広報で知らせている。	
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	畑で取れた野菜や花をいただいている。また、買物によく行く店の人とは顔なじみが出来ている。しかし、一部の利用者のみしか出来ていない。	
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ボランティアに入ってもらったり、学生さんに職場体験学習で入ってもらったりしている。	
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議を通して、地域の皆様をお招きし、ふれあい昼食会等の行事を行い、交流を深めたいと思っている。	12/13に本部で6GH合同の推進会議を兼ねて、クリスマス会を行う予定

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	年1回外部評価で指摘された所は、職員全員で話し合い改善に取り組んでいる。しかし、自己評価は全員で行っていない。	○ 全職員による自己評価を行う
10 (5)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	評価の結果を会議等で検討している。少しずつだが改善できている。	
11 (6)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	月2回介護相談員に入ってもらい、気づいた事を聞いたり相談したりしている。又、生保受給者や介護保険関係などで、担当の課との連絡、相談をしサービスの質の向上に努めている。	
12	○ <u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	管理者が勉強会に行き学んだ事を会議で報告している。また、必要な人には支援している。	
13	○ <u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議の時に話し合ったり、職員同士お互いに注意声を掛け合っている。また、入浴時全身観察をしている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	○ <u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書や、利用者契約者は納得いくまで説明している。また、自己評価や外部評価の結果も一緒に渡して説明している。	
15	○ <u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者がくつろいでられる時に、意見や希望を開くようにしている。また、運営推進会議に参加していただいているが、話されない為なかなか反映されない。	
16 (7)	○ <u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月1回、山門便りと一緒に金銭利用明細書や、担当職員の近況報告の手紙を送っている。また、家族が面会に来園された時にもお伝えしている。	○ 利用者から預ったお金は他の職員と一緒に確認する。実施指導の時に指摘された。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。 御家族の希望があれば、日誌等見ていただくようにしている。		
18 (8)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。 玄関入口に苦情相談ボックスを設けたり、公の苦情相談窓口を重要事項説明書に明記している。	○	前回の外部評価で指摘された為、本部に連絡済み。重要事項説明書に第三者評価委員が抜けている。
19	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 月1回の全職会議や山門会議に参加して、意見や提案を開いている。また、何かあれば本部に相談し対応している。		
20 (9)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 何かあれば職場に近い職員に連絡を取り、来てもらうようにしている。		
21 (10)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 本人の希望が無い限りは、最近では移動は無い。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 介護福祉士や介護支援専門員の受験の為の勉強会を月2～3回実施している。管理者も年に何回か県内外の研修に参加している。	○	11月より通所介護の方が、月曜日～金曜日まで来られる為、リハビリ等の勉強に取り組みたい。
23	○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。 職員の持っている良い所を引き出し、マイナス面をプラスに変えていけるよう声掛け等行っている。また、お互いの良い所を自分の中に取り入れてもらうようにしている。		
24 (12)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 グループホーム連絡会議の勉強会に参加、地域ブロック内での研修会意見交換会参加。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	新人歓迎会、職員旅行、忘年会等で気分転換をはかっている。また、職員からの相談等あればいつでも相談にのっている。何かあれば本部に相談。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員の持っている良い所を引き出し、それが仕事内で発揮できるように努めている。	○	今年度より職員の人事考課を行っている。
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	困ったことがあれば相談に乗ってもらったり、出来る事はすぐ対応してもらっている。また、適切な評価に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	施設見学に来られた時から、御本人の声に耳を傾けるようにしている。また、聞かれたことは納得いくまで説明させてもらっている。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	電話、訪問等で納得いくまで情報提供を行っている。		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その方にとって一番必要なサービスは何かを見きわめ、適切なサービスの紹介を行っている。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設に何度か足を運んでいただき、雰囲気慣れていただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	その方に何が出来るか見きわめ、自分でも人の役に立っていると思っただけよう支援している。また、人生の先輩として相談したり尋ねたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族の思いを大切にしながら、利用者の情報提供を常に 行い、共に関係を深めていけるようにしている。		
34	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	お互いの気持ちを伝える際、特に表現や言葉に気をつける 様心掛けている。		
35	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との 関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出や外食等のお誘いがあれば、体調が悪くなければ出かけて いただいている。		
36	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めて いる。	その場の雰囲気や状況、利用者同士の状態に注意し、何か あれば間に入り対応している。外出や外食等を行いお互い のコミュニケーションを図っている。		
37	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを 必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない つきあいを大切にしている。	電話で相談にのらせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	把握が困難な方に対しても関係者が本人の視点に立って話 合い取り組みを行っている。また、日々の行動や表現から汲 み取るよう努力している。		
39	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めてい る。	御家族や本人から情報を収集しているが、収集のみで終っ ている。詳しく書いた記録簿がない。	○	センター方式を利用して不足している情 報を収集する。
40	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の生活の流れを記録に残し、気になる事は詳しく記録し ている。	○	記録の簡素化の為、パソコンにて大まかな 事は記入している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプランを作成する時は、本人家族に連絡を入れ意向確認している。また、職員同士で情報を交換している。しかし、カンファレンスには家族の参加がない。	
42 (17)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しは、3ヶ月に1回行っているが、体調の変化が生じた場合は、その都度見直しを行い、御家族と連絡を取っている。	
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日誌に気づきやケアプランに沿った記録を記入したり、口頭などで情報を伝えている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	御家族が行かれない時は、病院受診の付添いをしたり、日用品等の購入などを行っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの受け入れを行っている。	
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ボランティアの受け入れや、研修生の受け入れ、職場体験学習の中学生を受け入れている。また、相談等あれば対応している。	
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービスの活用支援は出来ていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○ <u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	○ <u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	○ <u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	○ <u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	○ <u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	○ <u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	○ <u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	○ <u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組んでい きたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○ <u>プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個々の生活歴に合わせた声掛け、対応している。記録類は専用の棚で管理している。言葉かけは職員同士意識している。	
57	○ <u>利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定を大切にしている。	
58	○ <u>“できる力”を大切にされた家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	自分で出来る事は職員が見守り程度で声掛けしながらもらっている。	
59 (22)	○ <u>日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	1人1人の1日の流れを把握し、その方のペースに合わせ支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ <u>身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自分で好みの服を着ていただいているが、自己決定出来ない方は、職員が選んでいる。散髪は出張サービスを利用している。	
61 (23)	○ <u>食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の出来る事をしていただいている。食器洗い、テーブル拭き、おかずの盛りつけや配膳など、負担にならないように気をつけている。	
62	○ <u>本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物は本人の好みで対応している。	
63	○ <u>気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を作成し個別に対応しているが、排泄パターンがなかなかつかめない為、食事前やおやつの前にトイレ誘導をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	全員に入浴していただくと思うので、急がせてしまう事がある。その日の気分で入れられない方は、その方の希望にそうようにしている。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	消灯時間は設けていないが、起床時間は朝食の関係上決まっている。また、その日の体調によってベッドで休んでいた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人や御家族から生活歴を聞いて、少しでもその方に出来る事をしていただくようにしている。	○	リハビリを兼ね、お手玉をしていただいたり、本の好きな方には雑誌を購入している。
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	以前は自分で持っておられた方もいたが、お金がどこに行っただかわからなくなる為、御家族の了解を得て、全員ホームで預っている。買物に行った時は、預った中から出して使っている。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物、散歩、ドライブ等個別に対応している。また、外出出来ない人の為に外にテーブルや椅子を出し、昼食を食べたり日なたぼっこをしている。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行動範囲が限られている中で、少しでも喜んでいただける場所を選んでいる。盆やお正月は、家ですごしていただけるよう声掛けしている。	○	御家族に行事参加していただけるよう声掛けしていきたい。
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御家族から電話や手紙が来る時はおつなぎしている。また、利用者が帰宅願望を訴えられた時は、御家族にお願いし、帰宅してもらっている。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室に椅子やテーブルを置いて気軽に足を運んでいただけるようにしている。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	予備のベッドや布団がある為、それを利用していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	敬老会やGH合同運動会を行っているが、家族の参加を呼びかけている。	○	家族会を作りたい。
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	1ヶ月に1回のケース会議と山門会議の時に職員に言葉使いの声掛けはしている。職員同士、意識づけは出来ていて、お互いいつも気をつけている。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員同士が、利用者の動きを気にかけて、外に出て行こうとされる時は、早目に察知し声掛けしている。		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ドアの視窓にガラスを使用しているが、折り紙で目かくししたり、夜間の見回りを実施している。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬や洗剤、刃物等は利用者の目の届かない所に保管している。		
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルがあり、会議の後などに勉強会を行っている。		
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	何かあれば、主治医や訪問看護師に連絡を取り、指示を仰ぎ対応している。また、推進会議の中で、市の保険師さんと呼んで誤嚥を防ぐ勉強会をしてもらった。		
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	何かあれば事故報告書やヒヤリハットに記入して、改善策を講じている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練をしている。また、近くのセブンイレブンのオーナーさんにもお願いしている。	○	地域の方ともう少し連携を取りたい。
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	離園、転倒をはじめ様々な予測される事故等を説明しつつ、普通の暮らしの中に考えられるリスクについて説明、同意を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	月2回訪問診療、1週間に1回の訪問看護、年1回の健康診断で対応し、また、何かあればすぐ主治医に相談受診している。	○	利用者は、その日その日で体調の変化がある為、変化を見逃さないように勉強していきたい。
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者の体調により、主治医や看護師に連絡を取り、服薬確認や薬の変更を行っている。しかし、薬の目的や副作用は全員が理解しているとはいえない。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	1日1リットル以上の水分補給及び朝の掃除、ラジオ体操、ホール内歩行を実施している。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、口腔ケアをしている。夕食後はミルトンに歯ブラシをつけ、消毒している。また、義歯も外して入歯洗浄剤につけている。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	昼、夕の食事は栄養士がバランスを考えた物を食べている。(本部より配食)また、その方に必要な水分を摂取していただけるよう心掛けている。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症に対するマニュアルがある。細めに手洗いやうがいを行っている。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や布巾は細めに漂白している。朝のみ食事を作るので、野菜は傷む事がある。	○	食材に購入した日にちを記入している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	敷地内に駐車場も確保したり、入口に花などを植えている。	
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	おやつや食事時は好きな音楽をかけてくつろいでもらっている。季節の花を飾るようにしている。	
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファや椅子を置いて、利用者同士会話ができるようにしている。	
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の馴染みの物を持ち込んでもらったり、家族の写真等飾ってもらっている。しかし、居室に物があると混乱される方もおられる為、来ていない方もいる。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日掃除や空気の入れ替えをしている。また、室内の温度も利用者の体調に合わせて細めに行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	動きやすいように家具の配置をしたり、ベットの棚をつけて御本人が起居しやすいようにしている。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや風呂の場所を表示したり、居室がわかるように写真などを貼っている。	
97	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関の入口に花を植えたり、天気の良い日は軒に椅子を並べ、日光浴や散歩をしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの	<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	<input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと	<input checked="" type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	<input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	<input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ④全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが	<input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが	<input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない